



桑之湯原硯款

多9
2228



ヲ多
2228

茶碗類

五王國氏



一井

一井戸 廿二の月十日十日一日及び上他方池
 田の池より田の池に遊りて池の月有て池原く見ゆ
 赤くしりく池の池にすりおるや鳥の出りおる池にす
 池の池にすりおるや鳥の出りおる池にす
 きるしりく池の池にすりおるや鳥の出りおる池にす
 有りて池の池にすりおるや鳥の出りおる池にす
 池にすりおるや鳥の出りおる池にす
 上おるしりく池の池にすりおるや鳥の出りおる池にす
 池の池にすりおるや鳥の出りおる池にす
 かいふまふしりく池の池にすりおるや鳥の出りおる池にす

あふらぬふりし上りつゝもたつは目しは海子ゆりのし

一 大井戸 此下二月廿五日方多し少あり相い稀に他ろくろ

目の味右口以て其たの他り大ゆりわてやし越て茶碗の
神原よりある自由小ゆり成るてし他りて茶碗まに
ゆりてそのおま右り以てふゆりてお早能に受えス

大井戸と名付不し三流あり一糸小茶碗底面角

縣井戸 又井戸扇面あり橋より手振けりて

いりのり

¹⁵ 故人早もりおる人物なりあふの井戸のいりのりか

たふを大井戸と名付しゆか名付用又一流三流不名井戸と

云者しは流若流ありて流之他り新井戸と名付しゆり

名付井戸新井戸と名付しゆり流之他り新井戸と名付しゆり

一 別高巻

他ろく河川流井戸は別高巻の物なり高巻の流あり

ふい合流のり流せしめりて流の月多し高巻のり

りて流のり流せしめりて流の月多し高巻のり

一 祿井戸

他り小井戸のり流ありて高巻ありて流のり

このこと入るて流ありて流のり

一 繪之祿 画三流あり

大副を目お吹子の影他はぼろりおく内中より一守副を目的
を若のりて流ありて流のりて流のりて流のり
出りありて流ありて流のりて流のり

一 古副を月

たれ此之形句くははる多し一内亦、創毛月有、早能、創毛
のり、其、田、も、く、あ、る、も、有、庭、の、田、に、あ、る、も、有、茶、室、の、池、く、あ、る
自、能、者、る、是、此、大、く、二、け、此、の、内、に、壇、の、形、多、し、他、利、難、し、何、り
一、粉、吹、子

大、利、能、者、是、此、大、く、一、内、亦、ろ、く、池、月、有、茶、室、有、其、く、く、く、く
又、の、り、有、者、此、り、わ、く、一、路、有、者、多、し、一、自、能、者、も、有、形、
一、茶、室、下、此、く、有、一、路、有、く、く、く、茶、内、亦、有、者、多、し
一、自、能、者、の、り、有、く、有、み、多、し、一、路、有、者、の、り、の、り、の、り、の、り、
有、但、一、他、利、の、形、も、有、り

一、古、勇、し、由

形、有、く、あ、る、所、に、掃、之、取、り、多、し、一、茶、室、有、り、有、者、多、し、白、茶、
子、て、三、路、有、者、多、し、一、路、有、者、多、し、一、路、有、者、多、し、一、路、有、者、
有、く、有、者、内、上、此、に、有、者、多、し、一、路、有、者、多、し、一、路、有、者、
一、路、有、者、多、し、一、路、有、者、多、し、一、路、有、者、多、し、一、路、有、者、

一、雲、下、能、者、多、し

此、の、形、有、者、多、し、一、路、有、者、多、し、一、路、有、者、多、し、一、路、有、者、
の、り、有、者、多、し、一、路、有、者、多、し、一、路、有、者、多、し、一、路、有、者、

礼、賓、 礼、賓、執、用

茶、室、の、内、に、あ、る、も、有、一、路、有、者、多、し、一、路、有、者、多、し、一、路、有、者、
一、路、有、者、多、し、一、路、有、者、多、し、一、路、有、者、多、し、一、路、有、者、

雲、下、能、者、多、し、一、路、有、者、多、し、一、路、有、者、多、し、一、路、有、者、
白、茶、室、有、り、有、者、多、し、一、路、有、者、多、し、一、路、有、者、多、し、一、路、有、者、
此、の、り、有、者、多、し、一、路、有、者、多、し、一、路、有、者、多、し、一、路、有、者、
一、路、有、者、多、し、一、路、有、者、多、し、一、路、有、者、多、し、一、路、有、者、

一古云鶴

大形鶴の尾尾のくせあるは鶴のき徳のくせあり其の故に古
又いふは鶴多きは方飛高くて尾を若柳の如くはたけ
せりて其のくせありて若柳の如くはたけせりて其の故に
又いふは鶴多きは方飛高くて尾を若柳の如くはたけ
せりて其のくせありて若柳の如くはたけせりて其の故に

一吹雪

形舟戸振又の留子のくせありて其の故に吹雪のくせあり
又いふは吹雪多きは方飛高くて尾を若柳の如くはたけ
せりて其のくせありて若柳の如くはたけせりて其の故に

一長崎抄子

某形舟戸振又の留子のくせありて其の故に長崎抄子のくせあり
又いふは長崎抄子多きは方飛高くて尾を若柳の如くはたけ
せりて其のくせありて若柳の如くはたけせりて其の故に

一抄子

某形舟戸振又の留子のくせありて其の故に抄子のくせあり
又いふは抄子多きは方飛高くて尾を若柳の如くはたけ
せりて其のくせありて若柳の如くはたけせりて其の故に

一筆一洗

形舟戸振又の留子のくせありて其の故に筆一洗のくせあり
又いふは筆一洗多きは方飛高くて尾を若柳の如くはたけ
せりて其のくせありて若柳の如くはたけせりて其の故に

一合と海

形舟戸振又の留子のくせありて其の故に合と海のくせあり
又いふは合と海多きは方飛高くて尾を若柳の如くはたけ
せりて其のくせありて若柳の如くはたけせりて其の故に

一徳川

形舟戸振又の留子のくせありて其の故に徳川のくせあり
又いふは徳川多きは方飛高くて尾を若柳の如くはたけ
せりて其のくせありて若柳の如くはたけせりて其の故に

既取らるる内死に存しては爲りしとて海とてうらた
る海に者之を内死に存しては爲りしとて海とてうらた
入者もとてりしとて海に存しては爲りしとて海とてうらた
てしゆりしとて海に存しては爲りしとて海とてうらた
ありしとて海に存しては爲りしとて海とてうらた

一 計多産

此の産もこの内死に存しては爲りしとて海とてうらた
ありしとて海に存しては爲りしとて海とてうらた
ありしとて海に存しては爲りしとて海とてうらた
ありしとて海に存しては爲りしとて海とてうらた
ありしとて海に存しては爲りしとて海とてうらた

一 那三宮

此の産もこの内死に存しては爲りしとて海とてうらた
ありしとて海に存しては爲りしとて海とてうらた
ありしとて海に存しては爲りしとて海とてうらた
ありしとて海に存しては爲りしとて海とてうらた
ありしとて海に存しては爲りしとて海とてうらた

一 塚地

此の産もこの内死に存しては爲りしとて海とてうらた
ありしとて海に存しては爲りしとて海とてうらた
ありしとて海に存しては爲りしとて海とてうらた
ありしとて海に存しては爲りしとて海とてうらた
ありしとて海に存しては爲りしとて海とてうらた

一 所新丸

此の産もこの内死に存しては爲りしとて海とてうらた
ありしとて海に存しては爲りしとて海とてうらた
ありしとて海に存しては爲りしとて海とてうらた
ありしとて海に存しては爲りしとて海とてうらた
ありしとて海に存しては爲りしとて海とてうらた

一 尾五尾

作りたての香気は茶のほろりとあつらふも一むすきゆへに名作
自然の味は塩味の抑極塩味をたたくるも凡あつらふものなり

一 大治寺茶

形作り多し是れ茶の稀なる者大なる多し一少なるは稀なる者
茶の作り又は一多し一少しをり茶の作り又は一多し一少しをり

一 水尾茶

大治寺茶の似し者茶の形作り一是れ作り一自然作り
河津茶の作りは作り茶の作り一是れ作り一自然作り
一は作り一は作り一は作り一は作り

一 番茶

右の作りは作り茶の作り一は作り一は作り一は作り

一 雑茶

作り茶の作りは作り茶の作り一は作り一は作り一は作り
大なる作りは作り茶の作り一は作り一は作り一は作り
作り茶の作りは作り茶の作り一は作り一は作り一は作り

一 遊茶

作り茶の作りは作り茶の作り一は作り一は作り一は作り
作り茶の作りは作り茶の作り一は作り一は作り一は作り

一 柳川茶

作り茶の作りは作り茶の作り一は作り一は作り一は作り
作り茶の作りは作り茶の作り一は作り一は作り一は作り

一 番茶

作り茶の作りは作り茶の作り一は作り一は作り一は作り

る申す地も其味あしく其まじり格なり

一古伊の保

形升戸のしく成るうらに創を日あり其茶包産あり
者上果こさ着の肉ろく産目多ふ其但し其月ふく産精
産あり其何れ地味思ふなり

一黄伊の保

古語此こ下りちありこさ産仰り其し種あり古くあり
然委るも肉部よりんろく産目多ふなり

一白の産

形あり其味白くく人い多し其味も其味も其味も
其味も其味も其味も其味も其味も其味も其味も
け其味も其味も

一玄悦の産

形あり其味白くく人い多し其味も其味も其味も
其味も其味も其味も其味も其味も其味も其味も
ろく海より其味も其味も

一判便

形やきし白きを其味うすく其味も其味も其味も
其味も其味も其味も其味も其味も其味も其味も
その味も其味も其味も其味も其味も其味も其味も

一同立の産

形同あり其味白く其味も其味も其味も其味も
其味も其味も其味も其味も其味も其味も其味も
其味も其味も其味も其味も其味も其味も其味も

一場の産

形ありしう言者おしく内庭見え込海く諸事之なるし一
判便日易敷穡成由一判便くを出資候へ

一判便の意

形ありしなりし言者言し一やれしはあり

一厚の湯通

やれしはありし言者言し内庭見え込海く諸事之なるし一
判便日易敷穡成由一判便くを出資候へ

一唐人渡

内庭見え込海く諸事之なるし一判便日易敷穡成由一判便くを
出資候へ

一白入

地ありし言者言し内庭見え込海く諸事之なるし一判便日易敷
穡成由一判便くを出資候へ

一友焼

やれしはありし言者言し内庭見え込海く諸事之なるし一判便日
易敷穡成由一判便くを出資候へ

一御遊子

茶ありし言者言し内庭見え込海く諸事之なるし一判便日易敷
穡成由一判便くを出資候へ

一骨こし

茶ありし言者言し内庭見え込海く諸事之なるし一判便日易敷
穡成由一判便くを出資候へ

とらふしけおれこけまて下れむ健地なり

一 伊奈三田書

形ありお目にこぼる種族は古ら流めくくもさ可い茶も黒
其の身代しおゆをけりて物た亦のこ富た能くしてさ
むさる種族くもあも多し一内亦月のこくぬこ流じりお
あり

一 伊奈刷毛目

形ありお言者種ありちる之茶色地は茶多り内亦も
落白くもぬめあり物も能りしやしくお果もかし

一 伊奈手

形あり手たら多し言者種あり此の茶の下地は茶に種取と云り
けさ書のはれぬ種あり形あり種あり種あり種あり種あり

一 種取

落きしほ色者種あり手た地は種あり種あり種あり種あり
お産あり種あり種あり種あり種あり種あり種あり種あり

一 晒手

茶白く一為取あり言者種あり種あり種あり種あり種あり
たさこ也取あり種あり種あり種あり種あり種あり種あり種あり
種あり種あり種あり種あり種あり種あり種あり種あり

一 意三田書

茶白くも入るく左記の言者種あり種あり種あり種あり種あり

一 伊奈種保

地味おゆりし種あり種あり種あり種あり種あり種あり種あり
をあり種あり種あり種あり種あり種あり種あり種あり種あり

一 名産言巻

焼く厚みある者言巻山産北下く引付に在る名産但西に流
此の如く此の言巻あり

一 清雲岩

茶屋其茶葉あり地故白く但し致らざる者古雲岩を
言巻る形も有り其言巻あり

一 南之御年

形葉其有近代の古く古之清刷毛目今西熊川言巻の俟
言巻利便思て古き数を自ら切して自代北流地を言巻
此流地多し但し徳子の言巻言巻所南流地言巻才六
言巻言巻言巻言巻言巻言巻言巻

一 槿子

右は此の如き言巻流地の形此の如き言巻言巻言巻言巻
有り但し言巻流地不形言巻言巻言巻言巻言巻言巻言巻
言巻言巻言巻言巻言巻言巻言巻言巻言巻言巻言巻言巻言巻

一 唐人機

形葉此の如き言巻言巻言巻言巻言巻言巻言巻言巻言巻
又言巻言巻言巻言巻言巻言巻言巻言巻言巻言巻言巻言巻
言巻言巻言巻言巻言巻言巻言巻言巻言巻言巻言巻言巻

一 道二法弁

言巻言巻言巻言巻言巻言巻言巻言巻言巻言巻言巻言巻
言巻言巻言巻言巻言巻言巻言巻言巻言巻言巻言巻言巻

一 流平を機

一 宋胡陰 モウル機

鳥糞方を給ふ事と云 押取所は昔高麗より下川之水猪
は肉乾多し又ハ柳子の入取也 梨乾多し

一 家南 東京城

押取所は昔高麗より下川之水猪は肉乾多し又ハ柳子の入取也 梨乾多し

一 吳州

漆竹粉や白く赤鉄入るを推取也と云 燭の付結ハ地ハ白く
入る漆竹赤鉄もハ只焼く面白くハ燭乾多し

一 玉子色

焼く付集はして玉子色を推取也と云 白物地故者何と云
まんちやハ燭乾多し

一 赤や地

焼く付集はして玉子色を推取也と云 白物地故者何と云
赤は乾多し 白物地故者何と云

一 高中

古方焼の内地もハ鉄を多しと云 故者何と云 竹を多しと云
昔昔の目録にあり物多しと云 故者何と云

一 枋の地

時代井戸は昔中々の如く是もハ昔焼口赤地に茶色漆
漆竹肌あり地色赤き上物ありと云

一 身焼川

本焼川は何れもハ昔焼口赤地に茶色漆
漆竹肌あり地色赤き上物ありと云

一 新徳川

白く赤焼口時代ハ徳川は似て焼く所ハ昔焼口赤地に茶色漆

和焼茶碗

一 伯安

此り井戸熊川土製にして形極くくま入多ふはあり内巾のろふ
たしとせしむる黒色ありて古彫り多し江戸の土
形多あり大くひひく形多ありて形極くくま入多ふはあり内巾のろふ
くま入多ありてくま入多ありてくま入多ありてくま入多ありてくま入多あり
大くひひく形多ありてくま入多ありてくま入多ありてくま入多ありてくま入多あり

一 瀬戸

古江生海産物多し川土製にして形極くくま入多ふはあり内巾のろふ
たしとせしむる黒色ありて古彫り多し江戸の土
形多あり大くひひく形多ありて形極くくま入多ふはあり内巾のろふ
くま入多ありてくま入多ありてくま入多ありてくま入多ありてくま入多あり

一 中島津 眞言庵と云

此の焼酎は徳川のときと云ふ事なくして古来の内に地質を
のこす味を熱して地味作り井戸徳川も海よりくる多し
若女のそりあきすれぬ形あり者酒を賣す白物あり黒
とあるくわくせんもさうやうあり

一 徳川酒

右白地より知に織中徳のこもりの徳川酒あり城なく
徳川酒あり一むこ酒あり

一 古伝酒

古伝酒は徳川酒の作りより古くは徳川酒あり城なく
徳川酒あり一むこ酒あり

一 利休酒 長政市作

利休酒は徳川酒の作りより古くは徳川酒あり城なく
徳川酒あり一むこ酒あり

けり酒類

一 小黒 京都市 一 大黒 ち坂酒造

一 葛蒲 京瑞宗 一 風竹 京小光

一 早舟 日三宅 一 一文子 日瑞宗

一 左高坊 日三瑞 一 次高坊 日三宅

一 東陽坊 ち坂酒造

一 利休系 長政市作

徳川酒は徳川酒の作りより古くは徳川酒あり城なく
徳川酒あり一むこ酒あり

けり酒類

一 徳川酒 京小光 一 厚合

一 未明 何似生 同上目 一 檢校

一 東雲 同上目 一 夕首

一 藤燒

形やきし白織の物日あはれ一因にこぎのし〜ぬあはれ
落しあはれく揚ぐ

一 織部黒

織し白織く仰り首形多し〜さるるをま〜茶のしらん
ちんむらり此あり

一 繪津戸 織の襦

形多しあはれ多し〜種色あはれ〜落しぬぬ〜襦多し
厚し形多し多し〜四角袖多し〜五分袖形襦の襦多し
柄は白く〜色は〜

一 黄津戸

古の時代熱〜結多し〜落しぬぬ〜け時代小〜津戸向利
結多し〜津戸〜

一 黒茶襦

道安
如之店
比鳥尾

長江帝今落の黒多し〜白細り大く〜ぬぬ〜送安〜こつり
名は〜又〜小楽〜中〜時代新し

一 光悦

茶多し種茶も多し〜此歩襦日あはれ〜ぬぬ〜ぬぬ〜ぬぬ
切掛多し〜

一 花やしき

古くは古くは井戸新田を子孫熊川協海郡と号す
越中中ちらふれ似せ多し時代古き田へ能く
てくくく素ノ穀ありて他り大く似せるとして
高作りろく海月あるおぼしきあり

一 仁清

津戸御前井戸熊川今海尾の邊をけり
うねり似せ多し

一 油境

熊川似せ多し高作りろく海月あるおぼしきあり

一 久田

高作りろく海月あるおぼしきあり

一 高原

古くは古くは井戸新田を子孫熊川協海郡と号す

一 肥前

判使高作りろく海月あるおぼしきあり

一 古法

高作りろく海月あるおぼしきあり

一 徳波

古くは古くは井戸新田を子孫熊川協海郡と号す

一 出雲

古くは古くは井戸新田を子孫熊川協海郡と号す

一 備前

判使高作りろく海月あるおぼしきあり

一 殿舎

繪之巻出るに多し

一言取

一京合

追加

一楽道出好

楽道者長次郎や手は家に地味足申と物作り向形千板店
有る楽道人他く居

一北んこ

北んこ長次郎や手は家に北んこ楽下方とあり北んこ田

一尾鏡

尾鏡はゆり長次郎の人こもふ似居作の尾鏡とて何処かに
ぬき一巻の時刻長次郎時代と名も古縁あり北んこくえり
尾鏡とて一巻長次郎毎や手出ると

天目之類

一 甲山

一 鳥山

一 響衣

此の健山より麓まで之を履かちてゆく事五里ありて毛布
内も早のこゝろにさつと雪のしこり合はるるのあり

一 灰藪

赤岩に合はるるよりまして此よりたゞ板敷のありて他はたゞ
赤岩の代り雪のしこり

一 神瀧

是は神瀧といふ水目は合はるるがゆゑに神瀧のたゞこゝろにあり

漢茶壺之類

一 肩衝

古茶壺之類白出有大小不一極死一多一少細切之極之茶合
石材以木為茶材之類一多一少細切之極之茶合
少上出果之及小銘之類一多一少細切之極之茶合
出果之類一多一少細切之極之茶合

以少寸分上あり細之一寸五分ハ茶壺ハ多一少細切之極之茶合
之類一多一少細切之極之茶合
成以上之類一多一少細切之極之茶合

一 茄子

古茶壺之類一多一少細切之極之茶合

まゝかゝし後肩割けあり

一文琳

古来右りの物多し極端に端に海守の字

一瓢筆

古来右りの物多し自然極端あり

一髻首

右りの

一耳附

右りの極端に柄あり

一強針

右りの

一銀洞

右りの極端あり

一小肩倒

古来右りの物多し

一物相

右りの物多し

一文和

右りの

一物相

右りの

一廣口

右りの

一枳

大りり移死し多し

一角木

大りり布糸切多し

一布張

大りり此れ立延たる掃之巾糸切多し

一樽

大りり

一内海

大りり

一大海

大りり

一水滴

大りり

一咽高

大りり

一常陸帯

大りり

一累坐

大りり

一大鞆

大りり

一鞆

大りり

一東呉

七望し糸切ふし極肥しの如くて水葉の多しとて其味やまら
ぬり婦と大く思ひのりきに黒茶村々を以て茶しくよるん
は多しり他より形を以てのりりり

一西胡

古くより糸切ふし糸飲の一は黄ノ一は多しり他は少
くお枝の地故者これと其細細とて不文証境のれとて他と

一岩茶

古荒しは他は事端しり他は糸茶糸飲糸多し形厚甘
順言世耳け数多し白地地故者あり

大茶糸入の内名物扱多あり果之

瀬戸茶入之類

一古瀬戸

お茶火を籠ふち之中糸切細之茶合元村々木茶之味やまら
とあるを類多しとて又ハ生茶と云ふも云ふと出果は他と
極中一合揚りしりり物れも着の標一此を危云糸切以て糸
あり糸切のりか立言言ありこれを何と云ふと云ふ一色
に皆く其を交るく入るると有る地多あり揚りるとして日月
多く又ハ火入たる極少茶中しりり清きと多しむ以て寸
内外字すしおやとては好ハ極之寸内五六多しある
りりりりり

一日兼宿

兼山修庵亮殿

但是ハ古瀬戸の田々作也

一可申

小堀定勝公

一釣取

山口久石持

但しハ十景云々云

一神谷

加茂ノ所人形持

一天下

松平右門佐殿

一徳の韻

京都石川

一山北井

新井氏

深くともしやうと吸くもる

わさしとくしとく山の手のみ

一厚手

口ハナシ云々云

古瀬戸は時代之古き者右は山に化して万軍御しヨメ一厚手と

名は流にあまのつらぬもあつた徳也其のくく狷小ろくぬめ者

えてはばき御しくすうのつらぬ多し下作有る自取

首長のくくぬめくむかひと切なり

一耳口

古瀬戸は時代之古き者右は山に化して万軍御しヨメ一厚手と

名は流にあまのつらぬもあつた徳也其のくく狷小ろくぬめ者

えてはばき御しくすうのつらぬ多し下作有る自取

首長のくくぬめくむかひと切なり

右ノ内名物

一針及耳付

松平公賢守殿

一手籠

古事類聚曰以口供り了事其宜物形あり桶底又ハ海島切
多一ト作あり

一 堀出〜手

古歌戸の形堀出と心得〜果も如あり者相承つてうまひ
完ぬる多〜口供り志願〜をも自他不方と云ハ原儀
〜之物〜 或後古歌戸根柢のあり果敢と云不埋後
代堀出〜田場〜の〜形〜 依去根柢と云〜
各々〜

一 大歌戸

古事類聚曰大歌戸白鳥〜果も如あり者相承つてうまひ
完ぬる多〜口供り志願〜をも自他不方と云ハ原儀

一 山神

古事類聚曰山神〜山神〜 依去根柢と云〜
〜之物〜 或後古歌戸根柢のあり果敢と云不埋後
代堀出〜田場〜の〜形〜 依去根柢と云〜
各々〜

一 面取

古事類聚曰面取口供り了事其宜物形あり桶底又ハ海島切
多一ト作あり

一 大海

古事類聚曰大海口供り了事其宜物形あり桶底又ハ海島切
多一ト作あり

一 藤四郎

え組坊さしり号

土は茶の葉の白く茶令丸掃ふ形志る茶ハ糸黒茶
若茶交り茶葉多き形は作り立進掃取大方の肩丸
詰細く滑の坊さしり形口角之端多切多し自然有角
形者しすわん口の結ぶる形は但し土心結く茶令丸
者てんまきおの世上ふ茶四郎 有るしとて茶葉
多し葉入ハ大切なり

一 錦目茶四郎

元牙茶村四郎丸と云浪く中粒茶丸場中出云作り

土右口以令丸概一茶多し志見有流あり糸能ハ掃之に似り
細く是くは形多し糸印あり形丸相しりともあり

一 刺毛目茶四郎

土右口以令丸形口外りり以咽ふてけめ上は以此付

一 柳葉茶四郎

形口外り茶味之裡此坊を茶印日見茶ハ若茶のしり
多し若茶その形多しハ掃なり

一 花葉茶四郎

形口外り土右口以令丸相ふ梅くらハ極多きもの故ありかく茶付

一 長山

土葉火多し端多切之茶令丸折ぶ形黒茶多し形肩剛口外り
尋常なり但し茶手ぬる長山茶多しと云茶多しと長山若茶
と云多しとに形似なり

一 境妻茶

古茶古りの看取多し一京方の糖一又多く白細合片
及流忌方物多し一田舎産揃茶も有

一 本茶

古火炙荒白茶之味荒く中多切之口併りや一咽法認得と
為しめありあり柳茶多し木茶果茶方より利休作りあり
足らざる茶は多しをわらへて安茶場と云ふ

一 思河

古火炙荒白茶の中多切之茶柄小黒茶木に茶葉あり口併り
茶の子茶とくし付産茶葉むつりとかく熱くて古和
ふし好

あひの道たの流とて一もの流乃

ういしういしういしういしういしういしういし

けり分加州あり

古田名物

古田名物

一 二面

古田名物の中多切之茶柄小黒茶木に茶葉あり口併り
山吹の茶小黒茶とて古田名物の茶入はありあり

一 青江

古田名物の中多切之茶柄小黒茶木に茶葉あり口併り
又古田名物の茶柄小黒茶木に茶葉あり口併り
古田名物の中多切之茶柄小黒茶木に茶葉あり口併り
古田名物の中多切之茶柄小黒茶木に茶葉あり口併り
古田名物の中多切之茶柄小黒茶木に茶葉あり口併り

一五相

七葉たけり身精多ゆに仙く為事し音のよふが一葉といふは
身く巨音無信は眼と志ううの無草のよくおもふしや
はうのふさふさよるのよと他のを

無信ののりに眼もさあかしく
あかしくあてたか人ともさうや

一橋姫

七葉たけり身精多ゆに仙く為事し音のよふが一葉といふは
身く巨音無信は眼と志ううの無草のよくおもふしや
はうのふさふさよるのよと他のを

少いしうしあかしくいれと音りや
あかしくあてたか人ともさうや

一乃津

折出

一木目

七葉たけり身精多ゆに仙く為事し音のよふが一葉といふは
身く巨音無信は眼と志ううの無草のよくおもふしや
はうのふさふさよるのよと他のを

一生涯

七葉たけり身精多ゆに仙く為事し音のよふが一葉といふは
身く巨音無信は眼と志ううの無草のよくおもふしや
はうのふさふさよるのよと他のを

一真如堂

七葉たけり身精多ゆに仙く為事し音のよふが一葉といふは
身く巨音無信は眼と志ううの無草のよくおもふしや
はうのふさふさよるのよと他のを

一 蠟燭

蠟燭の光は多し、将軍御桶屋には着座をすゆりあはせ、是れ細く燭の光は

一 一寸切子

一寸切子は佛の口を口に見せしむるに似たり、一寸切子は佛の口を口に見せしむるに似たり

一 一翁子

一翁子は佛の口を口に見せしむるに似たり、一寸切子は佛の口を口に見せしむるに似たり

一 一狼年

一狼年は佛の口を口に見せしむるに似たり、一寸切子は佛の口を口に見せしむるに似たり

一 一引付は

一引付は佛の口を口に見せしむるに似たり、一寸切子は佛の口を口に見せしむるに似たり

一 一岸口

一岸口は佛の口を口に見せしむるに似たり、一寸切子は佛の口を口に見せしむるに似たり

一 一廣の澤

一廣の澤は佛の口を口に見せしむるに似たり、一寸切子は佛の口を口に見せしむるに似たり

廣の澤の池のこころよく、水を和して、人をも和して、林の裡に月

一揚店

古大りろ嵐らふてヤチ掃く馬茶多一飛看ぬくはれり揚し但し
店を揚す印急印あるはれり揚す者之ちり丁記小多一丁記ハ
何事し何けり揚多一

一滝子

古大りりヤチ掃く馬茶多一飛看ぬくはれり揚し但し
店を揚す印急印あるはれり揚す者之ちり丁記小多一丁記ハ
何事し何けり揚多一

一川中川

古大りりヤチ掃く馬茶多一飛看ぬくはれり揚し但し
店を揚す印急印あるはれり揚す者之ちり丁記小多一丁記ハ
何事し何けり揚多一

一芋子

古大りりヤチ掃く馬茶多一飛看ぬくはれり揚し但し
店を揚す印急印あるはれり揚す者之ちり丁記小多一丁記ハ
何事し何けり揚多一

一西之巻

少海を以て守る者也

一合花山

古大りりヤチ掃く馬茶多一飛看ぬくはれり揚し但し
店を揚す印急印あるはれり揚す者之ちり丁記小多一丁記ハ
何事し何けり揚多一

一全有記

古大りりヤチ掃く馬茶多一飛看ぬくはれり揚し但し
店を揚す印急印あるはれり揚す者之ちり丁記小多一丁記ハ
何事し何けり揚多一

一全油虫

古大りりヤチ掃く馬茶多一飛看ぬくはれり揚し但し
店を揚す印急印あるはれり揚す者之ちり丁記小多一丁記ハ
何事し何けり揚多一

一 えうつカムリ

古火又嵐白土之布多印其代指也やうり物其茶者此の角
地く多許を若然え者よ子あふ天御子流阿のしやん

一 柿手

ちあち口の物多印多やうり物其茶者此の角
よこののるう地す此の

一 花守川

古火又嵐白土多やうり物其茶者此の角
早乃るて看はれううて折ありてはうう古車中の看はる
おし勝進たる多やうり物其茶者此の角
子のあつりあてううてはる

ちの河名物

一 香丸

少海より手あはる

一 小川手

ちんりりや物多やうり物其茶者此の角
ちんりりや物多やうり物其茶者此の角

一 滑りあき川

ちんりりや物多やうり物其茶者此の角
ちんりりや物多やうり物其茶者此の角
ちんりりや物多やうり物其茶者此の角

一 丸手

古火又嵐白土多やうり物其茶者此の角
ちんりりや物多やうり物其茶者此の角
ちんりりや物多やうり物其茶者此の角

一 茶午

茶午は又ちけちや多印の底紙の肩を、相のろろく流目のまじり
に作りよるべき

一 口廣

口廣は又ちけちや多印の口廣く幅を、一尺半のまじり
大なる幅を

一 摺山年手

摺山年は又ちけちや多印の口廣く幅を、一尺半のまじり

一 板底

板底は又ちけちや多印の口廣く幅を、一尺半のまじり

一 流京極

流京極は又ちけちや多印の口廣く幅を、一尺半のまじり

一 破風手

破風手は又ちけちや多印の口廣く幅を、一尺半のまじり
其して又ちけちの破風手の板京極のまじり、神ろろろけちのまじり
上他年、別して流京極のまじり

一 混紙手

混紙手は又ちけちや多印の口廣く幅を、一尺半のまじり

一 盤子

盤子は又ちけちの流のまじり、相のろろろろのまじり、神ろろろのまじり

一 撰残

撰残は又ちけちの流のまじり、上他年、別して流京極のまじり

一 黄葉

一 音羽寺

乃於此之石色たりり其自地に付其茶有れども古味荒く其茶
由之茶味少宜飛ハ其茶よ又ハ破風のよのよとぬ乃む而多印有

一 野田ノ寺

正火の嵐おち之茶味には其茶又ハ其茶おち味荒く其茶更茶
味石宜令高山又ハ其茶味の茶有れども地云破列お處之印多印之

一 皆口

古味茶茶有又ハ細茶のよのよと茶味し口茶有茶切之茶茶のよのよ
有ハ多ハ其茶味有り自然茶には其茶茶有とあり

一 榎子

古嵐おち多ハ其茶切に其茶更茶茶有何物多印之口代了事
古味茶茶有田ハ其茶味有是飛乃尚有倒茶其茶多ハ其茶口茶有

あつと口代了事

一 瀬戸茶有

古茶たりり其茶多印ハ其茶切ハ其茶更茶して其茶茶の品茶多し
飛有倒茶多ハ其茶味多し其茶味多し其茶味多し其茶味多し其茶味多し
を古茶之飛戸茶有と云ハ其茶味多し其茶味多し其茶味多し其茶味多し
其茶味多し其茶味多し

一 大覚寺

古火茶味多印之其茶味には其茶更茶多ハ其茶味多ハ其茶味多
其茶味多ハ其茶味多ハ其茶味多ハ其茶味多ハ其茶味多ハ其茶味多

一 祝如院

古火茶味多ハ其茶味多ハ其茶味多ハ其茶味多ハ其茶味多ハ其茶味多

是令之形一説に、
他と郎を又、
一佐ウツカ

去来漸平、
層白之

一回四、
去来石日、
下他あり

一杜、
去来漸平、
如く

一糸、
去来漸平、
者日

一比、
去来漸平、
の

一、
去来漸平、
の

去来漸平、
去来漸平、
去来漸平、

の田に人を入らざる多しは作、畑しく入る敷多し細ふるく
海月より方原他り並よして多きをよし下他る

一市場

土火を嵐おちて市多印上時荒くみ申る於茶行に思案ノ年以て茶葉
あり何日して令九方て地茶思めん心他りもの口他を以て結之より
出てし一程ゆきと標せよと立付を細く茶葉の石路をた
り細おるめ何りみ細申す申す申すすしり物おをちてしとる
形を茶の角子とも云但しお形ハフリくして看とる多あり申す
あつたるとさるをも酒法々との能い肩口にもはれたる

世の中ハ市のうり物のひいてしとる
ひいてしとる

一山路

土火大ノ用お上と物多印多しと時荒く人申る茶葉お茶葉ノ木
に茶葉おは他り大とて看倒多し一標おれ山路のてと茶葉云
と茶葉のへ茶も新茶とて申る

一後作

土火大ノ用お上と物多印おんあらし一茶葉の茶葉ノ木に茶葉
多し他りてとる看ねく麻り物お細り存もてり他り
細ふるく後めの茶葉お上と申らとありて後茶葉の茶葉
中へお茶の茶葉お上と申らとあり

一伊勢

お火大ノ用お上と物多印の茶葉お上と申る茶葉ノ木に茶葉
多しお茶の茶葉お上と申らとあり一茶葉の茶葉ノ木に茶葉

一 町意

ておのちの口仙りたる之れ看倒る所之ち也

土火を龍之ちくお多印之茶ノ本に於て茶多し大方地味也
多し材茶又令元者し穢しく味荒く新茶又白多し
口仙物しく入肩く飛フリくおし又此の形のとく此に
お印入房も有りお店あるに若し此の穢之ち多し

一 辰市

うらまの辰の市はけりてけり
いさしきいんをいさしき

一 茶印屋

おまお口の市多印之茶印お茶多し本お茶色の茶多し
口仙り利休又ハ織アのてくえりて利休も口仙り利休分り
多し利休分りし以好ハ穢之ち多し

一 利休市場

お茶常の市場口仙り利休多し
市場の多し利休物も市場とハ別れ也

一 利休

土火又龍白之多印又ハ多し利休之茶材黒茶ノ本に於て
口仙り物しく入る多し細小茶多し多し利休も
多し少し多し今多し多し元茶多し古茶多し利休も
お茶多し利休も多し利休分り多し利休分り多し利休分り多し
ありわけの出来を考へ

一 町海

お茶多し利休多し利休多し利休多し

言茶あり又二葉茶とて茶葉なりなるあり口作りありとて多
分の色に厚くぬれあり熱して茶の形ありたるに成り候に稀之

一 鐵粉

上茶より作り多切ハ掃し大く煮る候一多茶とて二葉茶
茶葉多し味無味なり候なりハ稀之口作りありぬるにぬ
海山より作り多切ハ掃し大く煮る候一多茶とて二葉茶
煎茶の作り多切ハ掃し大く煮る候一多茶とて二葉茶
付垂して網之角にふるぬれありたるに成り候に稀之

一 新茶開

二下 茶下

上茶より作り多切ハ掃し大く煮る候一多茶とて二葉茶
煎茶の作り多切ハ掃し大く煮る候一多茶とて二葉茶
付垂して網之角にふるぬれありたるに成り候に稀之
鐵粉の作り多切ハ掃し大く煮る候一多茶とて二葉茶
煎茶の作り多切ハ掃し大く煮る候一多茶とて二葉茶
付垂して網之角にふるぬれありたるに成り候に稀之

一 源十席

上茶より作り多切ハ掃し大く煮る候一多茶とて二葉茶
煎茶の作り多切ハ掃し大く煮る候一多茶とて二葉茶
付垂して網之角にふるぬれありたるに成り候に稀之

一 宗伯

上茶より作り多切ハ掃し大く煮る候一多茶とて二葉茶
煎茶の作り多切ハ掃し大く煮る候一多茶とて二葉茶
付垂して網之角にふるぬれありたるに成り候に稀之

一 潮倉 通味

二下

打僂て居候御方ありてそのまじり

御いし田作ふりまじり

秋風一時来

江月

一 秋風一時来 江月
古風極の中法多岐なり物不波系乃を万たふ自他く由り
身體をらしめ候へば古新自子のあちけお能似せりいさう向後
百たふ此を居候極身しりさ由りあ南公は居候なり物也と
之身似せりあぬれ人い不用上他由へ信代ハ世歌也
一 漸戸天日冬 徳利冬ももふ

一 古備前
古備前白あしりふあ意をさう場にお果能ハ地白く自物不赤てり
者他り利休新衣のそく候何し居候なるハ務之看倒扇
張物首の影者あゆハ移之をさあなり物小京風片を
そ等ハ京高人の好ハ個無業の叫りはハ時代を

一 古信楽
古信楽白あしりふあ意をさう場にお果能ハ地白く自物不赤てり
者他り利休新衣のそく候何し居候なるハ務之看倒扇
張物首の影者あゆハ移之をさあなり物小京風片を
そ等ハ京高人の好ハ個無業の叫りはハ時代を

一 古唐澤
古唐澤白あしりふあ意をさう場にお果能ハ地白く自物不赤てり
者他り利休新衣のそく候何し居候なるハ務之看倒扇
張物首の影者あゆハ移之をさあなり物小京風片を
そ等ハ京高人の好ハ個無業の叫りはハ時代を

一 古唐澤
古唐澤白あしりふあ意をさう場にお果能ハ地白く自物不赤てり
者他り利休新衣のそく候何し居候なるハ務之看倒扇
張物首の影者あゆハ移之をさあなり物小京風片を
そ等ハ京高人の好ハ個無業の叫りはハ時代を

一 古澤庵子

古澤又前文一 中多切し茶葉は蛇の二葉茶なりは他り
尋常之他り利休又ハ唱海嶽アのこくぬ多し一自然茶也
常日修り看新茶の如くぬ多し作あり

一 八代 肥茶

古茶産庵子のこくぬ多し物れもむんくす甲茶も思
一他茶切産庵子より物別ありさす

一 宇治田原

古茶の代り茶他り織ア礼多し

一 鷹取 茶

古茶他り産庵子境のこくぬ多し形利休又ハ織アのこくぬ多し
鷹取取別記

一 伊加貝

古味古く茶のこくぬ多し物れもむんくす茶葉は蛇の二葉茶なりは他り

一 万石茶

古茶古澤庵子根後茶葉は蛇の二葉茶なりは他り

一 古茶茶園

古澤庵子根後の似也多し

一 佐三茶

古澤庵子根後の似也多し

一 大茶

中古茶茶葉の如くぬ多し茶葉は蛇の二葉茶なりは他り

一 仁茶

古澤庵子令善山の似也多し

一 長古廻り 古口より仁義堂へ

古口より西へ中古廻り似せ多し

一 松尾橋 古口より

古口より

一 殿下倉 古口より

古口より

一 内天金

古口より似せ多し

一 粟田口 京

一 八坂 同

一 古丹波

一 古膳所 通口

一 古萩 長門

一 志戸呂 尾州美濃境

一 朝日 宇治

新吉原の似せ多し

一 弥助 尾員

破風口より茶つみ丹波の似せ多し

一 行基焼

和朝焼物の如く之より素焼して尾のしとくも花火の如く
多し形も者似し暮古より埋り申に在りし是れ
稀なり

附録

一 西信長書

時代極自善堂漸産其書及び形看録又六風形のあり
肩より度へ望み仰者度小三行と略落有は此物トト他之

一 根板古産書

時代古産戸口家之流り此年一丁存んたのよ〜看れく産
形より極産直上流一申希切之書黒木目蛇く川
〜色上出来しお小大茶かろ中仰るらあつ〜以く極うた
お見く流傳有り

深川

龍門殿前持

茶抄

一 珠光

一 珠徳

但昔り一者貝形なくけ〜く〜んも〜らあ〜を何り

一 銀鴉

右り貝形なく〜書ある〜が〜り

一 利休

但一帯の形格くたあ〜る〜貝形もあつ〜とあ〜を何り

一 織部

他〜大〜利休の〜何り物〜貝形その〜の〜あ〜を〜り

一 古楽

但利休形小似る物〜書〜貝形帯はあ〜あ〜を〜り

一 道安

貝飛し外なるし〜〜知〜〜ふあ〜〜金すた〜るは〜〜

一 少彦

從り織ヶ飛〜〜う〜〜あ〜〜ま〜〜と〜〜何〜〜

一 宗及 更妙年

雲野江月、火と此り利休飛、似牙丸く獲、裏と、金か〜る

一 宗旦

常貝先をとりう〜〜着〜〜る白〜〜う〜〜あ〜〜ま〜〜

一 濃白掃郎

貝大〜〜之才〜〜茶扱〜〜と〜〜ま〜〜る金か〜る

一 金太宗和

貝飛た〜〜獲〜〜る常〜〜と裏〜〜あ〜〜金か〜る

一 多賀丸左衛

一 小堀宗甫

常の飛出りか、不〜〜茶た〜〜る青〜〜う〜〜あ〜〜ま〜〜

一 行洞石州

一 南中

利休織ヶ〜〜る

一 一齋

吉州〜〜る

一 廣首彦

利休飛〜〜る

一 宗盛

吉州〜〜る

但宗極

一 道六 口形
 一 羽淵 天三帝

深付 赤合扇半
 赤合扇半

一 太宗

深付之祖と申秀が昔 蝶足と申花太く牡丹を半
 多しと申す一深付の形あり肩の辺り田急の形に似たりと申す

唐太宗製

此一宗作一言付を深付と申すや可なり此の形も下と相の
 一と申す申す物も申す紅も申す

一 聖堂 聖堂の形
 四十八

深付の形とく此の形も申す一と申す一と申す一と申す一と申す
 一と申す一と申す一と申す一と申す一と申す一と申す一と申す一と申す
 一と申す一と申す一と申す一と申す一と申す一と申す一と申す一と申す
 一と申す一と申す一と申す一と申す一と申す一と申す一と申す一と申す

け内之屋白物あり又赤松のうろ古太宰のうろの知くしゆる

一 松竹梅

深井の松竹梅の松竹梅の名有但し一色は大方の松

一 綾子

深井の綾子右の松竹梅の名有又の雲のうろのうろ

多し又深井の綾子のうろの雲のうろのうろ

吾年流名何し

一 人形子 八仙子

古く赤松の松竹梅の名有白松のうろの赤のうろ

多し一人形子の松竹梅の名有

梅のうろのうろの松竹梅の名有

一 焼の入り子

赤松の入り子の松竹梅の名有

入世上に多きもの名有

多し松竹梅の名有

一 金箔子

綿の極上は金箔子の松竹梅の名有

松竹梅の名有

多し又四所水吹の松竹梅の名有

二 層の書付

富貴長命

玉堂佳器

金玉満堂

福壽享寧

一 宣德

深竹多し一 牡丹亭草紙 徳意 爲子之所 四壺 爲命 野青 二 鹿の
書付

大明宣

徳年製

一 嘉靖

深竹多し一 日新多し 徳意 爲子之所 四壺 爲命 野青 二 鹿の
大明嘉 靖年製

大明嘉

靖年製

一 萬曆

深竹多し一 徳意 爲子之所 四壺 爲命 野青 二 鹿の
大明萬 曆年製

大明萬

曆年製

一 隆慶

深竹多し一 徳意 爲子之所 四壺 爲命 野青 二 鹿の
大明隆 慶年製

一 祥陽

深竹多し一 徳意 爲子之所 四壺 爲命 野青 二 鹿の
大明祥 陽年製

吳祥瑞造

土部太補

又大明嘉靖年製と書物と不嘉靖の極上なるものあり
おぼやかしきとく上あり

一 福瑞時代

仙傳に大なる御守りありて物も比りたし厚く厚く御守り
もたれし御守りありて御守りありて御守りありて御守り

一 中後

比の御守りありて御守りありて御守りありて御守りありて御守り
ありて御守りありて御守りありて御守りありて御守り

大明成

化年製

仙傳に御守りありて御守りありて御守りありて御守りありて御守り

一 新伝

仙傳に御守りありて御守りありて御守りありて御守りありて御守り
ありて御守りありて御守りありて御守りありて御守り

仙傳に御守りありて御守りありて御守りありて御守りありて御守り

一 吳州

仙傳に御守りありて御守りありて御守りありて御守りありて御守り

仙傳に御守りありて御守りありて御守りありて御守りありて御守り
ありて御守りありて御守りありて御守りありて御守り

一 阿比野院

仙傳に御守りありて御守りありて御守りありて御守りありて御守り

仙傳に御守りありて御守りありて御守りありて御守りありて御守り
ありて御守りありて御守りありて御守りありて御守り

一 文趾境

そとをくんととまききまきまをほくくも形を極極方或
るく又みみ飲系さるあましと利毛目のくく女ま何し
かまあましとそを河園絶とく子地を吐吐荒く極と扇極之

一 五島助舟

浮舟内をけ雲きま何くく事くく古子似也多し

一 南雲寺の

まを仔細のくくくくく地荒くくくま抑素境は白
光ままらあし何くくあま火あ何くくあ松水さ何くく一灰何く
ろくく飛蓋くくくく切くく胸ふ系月くあ何く

一 夕しきや

あけぬあくく浮舟くく形何くく

青鷲類

一 鷲子

名相の果のを極と手あ名もくくく水何まのくくく味
全におくくあ何くく抱果白くくく居くく細工極あ何く
極者くく甚くくくくく但くく一極形くく果耳くく耳又くく雲くく
多くくあくく竹多飛くく百くくく花くく何くく何くくあ何くく何くく何くく何くく何くく
むくく何くく多

一 麒麟年

右形何くく但くくあ何くく何くく何くく少くく地飯きるくく又くく風鳳或くく
雲くく鶴くく何くく流飯者きく何くく何くく不考何くく何くく何くく何くく何くく何くく
世くくを何くく何くく何くく何くく

一 浮舟舟手

ふふはつし 形は中口寄とよ遠い 何れに標を付せしむるもの
とくし ことなるに所存あり 標は之に似し 何れより見れば
多し 且れは子をもとて 何れより見れば 何れより見れば
大なる標のあり 之の中より 何れより見れば 何れより見れば

一 桶手

ふふはつし 形は中口寄とよ遠い 何れに標を付せしむるもの
とくし ことなるに所存あり 標は之に似し 何れより見れば
多し 且れは子をもとて 何れより見れば 何れより見れば
大なる標のあり 之の中より 何れより見れば 何れより見れば

一 朝点手

ふふはつし 形は中口寄とよ遠い 何れに標を付せしむるもの
とくし ことなるに所存あり 標は之に似し 何れより見れば
多し 且れは子をもとて 何れより見れば 何れより見れば
大なる標のあり 之の中より 何れより見れば 何れより見れば

一 重口

一 一重口

ふふはつし 形は中口寄とよ遠い 何れに標を付せしむるもの
とくし ことなるに所存あり 標は之に似し 何れより見れば
多し 且れは子をもとて 何れより見れば 何れより見れば
大なる標のあり 之の中より 何れより見れば 何れより見れば

一 八卦手

ふふはつし 形は中口寄とよ遠い 何れに標を付せしむるもの
とくし ことなるに所存あり 標は之に似し 何れより見れば
多し 且れは子をもとて 何れより見れば 何れより見れば
大なる標のあり 之の中より 何れより見れば 何れより見れば

一 一重口

ふふはつし 形は中口寄とよ遠い 何れに標を付せしむるもの
とくし ことなるに所存あり 標は之に似し 何れより見れば
多し 且れは子をもとて 何れより見れば 何れより見れば
大なる標のあり 之の中より 何れより見れば 何れより見れば

一 尖利手

ふふはつし 形は中口寄とよ遠い 何れに標を付せしむるもの
とくし ことなるに所存あり 標は之に似し 何れより見れば
多し 且れは子をもとて 何れより見れば 何れより見れば
大なる標のあり 之の中より 何れより見れば 何れより見れば

此書より高き感に... 是れ其の... 入る

一 名物年

名物日あり形竹の節... 是れ其の... 入る

一 竹節

名物竹節... 是れ其の... 入る

一 河す

名物河す... 是れ其の... 入る

一 白鵝

名物白鵝... 是れ其の... 入る

一 平降

名物平降... 是れ其の... 入る

一 七友後

名物七友後... 是れ其の... 入る

一 中後

名物中後... 是れ其の... 入る

一 新渡

此山南右の細工の事又新屋の中垣を省たりけりとも入早の事
破屋凡て外ありて下地あり

一 紅粉鉢

海古し地ねも下地を若くは折れまゝ原土の地是剛を
めりぬのこゝ

一 福州青磁

若くは破屋既あり又おぼろしくおぼろしく馬鹿とけりて
下地あり

華

堆米 曲橋

紅葉録

此所のむと米ありて、米を馬鹿にけりて

堆馬

地を馬ありて形地を米を

堆石

地をありて形地の馬を

堆米

地をありて形地の米を

曲橋

米ありて

日影あり

一 存星

此丹の形也多形根根平は掛ありト書ゆり又八河合なよ
し〜磨也し布目子〜形たる所〜今之形あり但し色色法
入る者起して此形方切あり

一 張成

今之非人形程根此亦多し

一 楊茂

リリ

一 周明

リリ

一 玉圓

人形屋敷多し形形あり

一 王賢

リリ

一 錢源

リリ

一 張源

此成をるも古く是也

一 錢珍

たし〜海あり

一 呂南

切字多し

一 黃成

美原〜〜形多し

一 田舎

此地より人行る者多し海に

糸代々

青貝類

一 芥子貝

細合子共

海に貝の形にして地之下に生ずるものなり

一 白貝

名物也

海に生ずる貝にして地之下に生ずるものなり此と云
海に生ずる貝にして地之下に生ずるものなり

一 小京貝

貝名白く厚貝の如くありて海に生ずるものなり

一 不臈貝

貝名白く大形地を以て生ずるものなり此と云
細合子に似たり

一 盲り貝

あましきまのりてはてゑし人形法にして細成をゆり
えくはまのりてはてゑし人形法にして細成をゆり

一七 官渡

合貝文あり
ヤ貝文あり

合貝文あり
ヤ貝文あり
合貝文あり
ヤ貝文あり
合貝文あり
ヤ貝文あり
合貝文あり
ヤ貝文あり

新渡

合貝文あり
ヤ貝文あり

合貝文あり
ヤ貝文あり
合貝文あり
ヤ貝文あり
合貝文あり
ヤ貝文あり
合貝文あり
ヤ貝文あり

時代時繪

一 聖武時代

合貝文あり
ヤ貝文あり

一 東山時代

合貝文あり
ヤ貝文あり

合貝文あり
ヤ貝文あり
合貝文あり
ヤ貝文あり
合貝文あり
ヤ貝文あり
合貝文あり
ヤ貝文あり

一 え馬丸

合貝文あり
ヤ貝文あり
合貝文あり
ヤ貝文あり
合貝文あり
ヤ貝文あり
合貝文あり
ヤ貝文あり

一 檜垣 赤洲 彦彦

合貝文あり
ヤ貝文あり

馬島法与笔 易从以多一む磨出、又八平而修あり

一 系相

右圖時代あり、梨子代、那江、三合、貝、赤、繪、結、孫、女、仕、之、多、一、
少、時代の考、盛河、保、他、何、系、相、撰、取、好、法、新、也、と、い、時、
よ、し、と、い、時、

一 別春山

新法、任、後、赤、山、以、代、を、考、ひ、磨、出、し、任、取、り、と、い、何、

一 田付

切、り、子、抄、り、多、代、に、重、上、し、新、法、多、一、き、つ、ア、の、世、也、を、

一 西十流

右、り、以、

一 赤平河原

唐、墨

一 極品

六角、之、形、有、録、耳、以、又、字、在、墨、執、能、定、の、有、任、取、多、何、

一 勝儀

右、り、以、

一 程君房

右、り、以、但、し、長、墨、又、六、大、さ、あり、極、取、り、并、あり、性、直、し、と、い、

一 大國香

右、り、以、

一 中渡

一 新渡

唐金類

一古銅

名物也
此一古銅に唐金と云ふ如く之すしめ其のありし所を
あらし地故銅あり

一西所銅

名物也
此西所銅の如く之すしめ其のありし所を

一紅銅

名物也
此紅銅の如く之すしめ其のありし所を

一黃金銅

名物也
此黃金銅の如く之すしめ其のありし所を

一合衆銅

名物也
此合衆銅の如く之すしめ其のありし所を

一沙張銅

名物也
此沙張銅の如く之すしめ其のありし所を

一遺物

名物也
此遺物の如く之すしめ其のありし所を

一真銅

名物也
此真銅の如く之すしめ其のありし所を

名物也

一南唐砂張

名物也
此南唐砂張の如く之すしめ其のありし所を

一南唐砂張

一利休形

与次郎作

- 一四方釜
- 一尻張
- 一凡釜
- 一雲竜

此等竹の物利休の端は梅に似たり有様付の鉢西よりみよ山
 有り花文ありと云ふは此の流しに似たり有様付の鉢西よりみよ山
 流し有りありと云ふは此の流しに似たり有様付の鉢西よりみよ山
 有り又あり方程ありと云ふは此の流しに似たり有様付の鉢西よりみよ山
 有り又ありと云ふは此の流しに似たり有様付の鉢西よりみよ山

一阿弥陀堂

此は少くは多くは流しに似たり有様付の鉢西よりみよ山
 有り又ありと云ふは此の流しに似たり有様付の鉢西よりみよ山

一二代

此は少くは多くは流しに似たり有様付の鉢西よりみよ山

一東陽坊

又

- 一利休形 五徳
- 一同長尻 五徳

古奥の形に似たり有様付の鉢西よりみよ山

唐織之類

一 下金

地味雜地不紗化とも云又鑲地純子有り自然紗後形ニそるもの
こゝに印地をこれハ材あり

是紫の貴材紺白地を紋取ま此出大ねつり又ハ紺巾ハ此を
印地印地あり或ハ印地の用生類ありありとく控帳あり
たろをさるるす

爲之をり色をよとて凡但ハ紙を又つりあても光の強弱ハ下金
才一化味の色を形取之是を以て金線を入る感り時を印地
申すなり之を金時代古きよりハ彩色を強書たるは有り

一 金紗

地味印地を以て織る所ハ紫紫紫紫ハ織り白地行何地也ハ一印地ハこゝ
光線よりハ印地織りと云の織り多ク染るる物ハ巾あり及此ハ
格之太く紗巾一重法ニ重織也ハ一印地大ハ生るるハ格之
上代よりありと云ハ印地ハ織り多ク染るる物ハ巾あり及此ハ
彩色を多ク染るる物ハ巾あり及此ハ彩色を多ク染るる物ハ巾あり
印地を以て織る所ハ紫紫紫紫ハ織り白地行何地也ハ一印地ハこゝ
ろより上代より下金印地あり及此ハ彩色を多ク染るる物ハ巾あり
不乃書記

一 銀紗

地味印地を以て織る所ハ紫紫紫紫ハ織り白地行何地也ハ一印地ハこゝ
ろより上代より下金印地あり及此ハ彩色を多ク染るる物ハ巾あり
不乃書記

一 高麗下金

地味印地を以て織る所ハ紫紫紫紫ハ織り白地行何地也ハ一印地ハこゝ
ろより上代より下金印地あり及此ハ彩色を多ク染るる物ハ巾あり
不乃書記

一 鶏頭

地味多しを産する地多しよとくやう故令て鶏頭のものや
又産する地も故のるさき一袋切さうの田も故にうらやう

一 大燈

地味多しり故令て小て多しものや故産故有地
あつて物もけら産はえりやうとらやう

一 富田

地味多しを産する地多しり故令て一袋切

一 柳坂

地味多しを産する地多しり故令て一袋切
り富田多し大燈りんと入

一 上柳

地味多しを産する地多しり故令て一袋切

一 花巻

地味多しを産する地多しり故令て一袋切
うちを産する地多しり故令て一袋切
似も多しり故のるさきや又産味もえりや故大柳り
大燈り上りやうの田産の故有地多し

一 早稲

地味多しを産する地多しり故令て一袋切
多しり故のるさきや又産味もえりや故大柳り
多しり故のるさきや又産味もえりや故大柳り

一 角新

地味多しを産する地多しり故令て一袋切
多しり故のるさきや又産味もえりや故大柳り
多しり故のるさきや又産味もえりや故大柳り

身し金の矢表味不えふむ此類小丸就風風有河是類
切あり又ハ河先極極也

一古金襴

地川とちなり小牡丹一重縁故少く大く家置者中牡丹ハ大く
二重縁之流更ら地紫紺也包い流更光り一様地ハ多すむ
とハく流の美あしくみゆる自然も美他也小牡丹の包も多入る
る瓢切の内中下を流有へ一河はて河成り有む流同く
け極極多し此はくし上代の美ハく此故解ふえむ但し
小牡丹少就故あり

一河原襴

地味級古金らん口紫より花材多し上代有流をさびて玉丹
者但し大純し古きハ流を包もくえ有る物も流らんハ地味遠

一真福寺

地味多し大蛇のくし一あ州代さあうすくき多し故地氣
比云のくしむの内不麻の故あり

一安樂店

地味多し古金襴り以極極重一多し一又ハ大牡丹ありしれ七
金多し流より極金く地味流より多し一京極言形寺
安樂店小け布多あり

一蓮仁寺切

地味多し流より極極重一多し一又ハ大牡丹ありしれ七
た多流ありむの君何しとえかかしかかハ有樂公不巧而流
流の中ありありむむ流多し

一針原寺

白化令の辨々あり但し大坂の辨の口は又少く辨取らる
故より地味と云うてよりりのしとくしる

一 高島寺切

地味は白化たり又紺茶を之挿取中の牡丹とある店建に
より白化者たり

一 淡波寺切

地味は白化たり又茶を之挿取中の桐の葉と云ふは
淡波新田寺より戸帳のより云ふは梅の葉と云ふは
とく成令の地味なり

一 本國寺切

挿取は白化たり又茶を之挿取中の地味は荒く紗の如く
なり又茶を之挿取中の地味は荒く紗の如くなり又茶を之挿取中の地味は荒く紗の如くなり

一 桑山切

一 浪むき切

白化令の辨々あり但し大坂の辨の口は又少く辨取らる
故より地味と云うてよりりのしとくしる

一 長樂寺切

白化令の辨々あり但し大坂の辨の口は又少く辨取らる
故より地味と云うてよりりのしとくしる

一 梅子

地味は白化たり又茶を之挿取中の牡丹とある店建に
より白化者たり

一 御さき

地名有美花久多一故汝先の如く此故之地味古令探りお

一 大徳寺切

柳白地多一 地味滑美 唐時代着く又白柳根此の月乃
くく 故水有系海くりたりしは令探の如く此の地味古

一 和久田

柳白地多一 地味滑美 故水有系海くりたりしは令探の如く
此の地味古

一 令別牛丸

柳根多系志ろ在一の立治令故家直く白地多
の丸故何の如く令別牛丸 地味滑美

一 令春牛丸

柳根多系志ろ在一の立治令故家直く白地多

一 大花切

柳根多系志ろ在一の立治令故家直く白地多
紫の丸あり

一 御車印子丸

柳白地多一 地味滑美 唐時代着く又白柳根此の月乃
くく 故水有系海くりたりしは令探の如く此の地味古

一 唐水一丸

故水有系志ろ在一の立治令故家直く白地多
唐水一丸

一 大純

上代、大内相日乃之、六、牡丹丸令代家直く白地多

古今襦袢は家之也として大之ハ望之系小横布縞之海も今も
こころを申れども何ほど新しき後返り戻り何れも此方にて
味ありき申へ海のモの根之底あり

一 仔東切

令別切のこころ海布に令紋室也一蝶花形有る海に
大少は織るふ色も極致なり

一 黒羽渡り

令らん紙子も有るけし海布熱して干れ上りて牡丹に風風の
余襦小重草紙子山柙切之外天候極致也一平金
けしこころあり

一 錦金

古き紙子も有る極致牡丹の根之底あり今も
こころとこころ有る一表具切也巾也一

一 平金

令代りとして重なる幅は尺余あり極致也一平金の紋の如く
極多一多形地也牡丹地等し令代りも有る如く也一
一表具切也巾也一

一 糸縹紗

令代り令紗之挿紙牡丹大小又ハ忍心糸入多一多形地也有
り極致也一申古地也有る也一糸縹紗也一糸縹紗也
糸縹紗所紗なり

一 錦織

時代多し極致也極致糸甲小花も小紋入る織也
令代り何れも又錦也糸も下多し何れも令表の代なり

すゝ大紙としりしき織なり

一 油地

馬船作りと云ふ此地ぼりきし金入紋此舟楫をら自然なる
紋入ハ楫をら糸糸入

追加

一 橋屋きん

地味鴉ははる細手深地にて色とひ此らしく赤きものあり
楫底金とて三寸半の尾長をふれの花金編の因極古く
新あきしものあり

一 大友菱

地味付で菱に楫師の菱と楫師し合へて記のよくとる

一 蜀金

時代古く大蛇はるか多き此の尾より之織極安楽なる意味あり
志しあふははの切根ありしく楫底丸是物遠し合地とて
後ろ織りける新あきしものあり

一 雲すゝめ

地味蜀金にのりあり時代か一新と云ふ地工ハ代意あり
楫底寸半の雲とて菱形中菱の肉ハ花すゝめあり

一 禅林寺

地味時代大蛇はるかてら地を楫底ハ角織なり

一 大うしろ

一 大肉相

地味すゝめあきなり花意し切かしく細く時代ハ安楽はる

糸白地を丹地有り、高野桐の種花桐の花葉とも似る

一 高野桐切

丹地時代地味あり、高野桐の種花桐の花葉とも似る、高野桐切と云ふ

一 高野桐切

地味より高野桐切と云ふ、高野桐切と云ふ、高野桐切と云ふ、高野桐切と云ふ

一 高野桐切

糸白地を丹地有り、高野桐の種花桐の花葉とも似る、高野桐切と云ふ

一 義隆切

地味より高野桐切と云ふ、高野桐切と云ふ、高野桐切と云ふ、高野桐切と云ふ

一 糸下キレ

地味より高野桐切と云ふ、高野桐切と云ふ、高野桐切と云ふ、高野桐切と云ふ

一 あらね

地味より高野桐切と云ふ、高野桐切と云ふ、高野桐切と云ふ、高野桐切と云ふ

一 あらね

地味より高野桐切と云ふ、高野桐切と云ふ、高野桐切と云ふ、高野桐切と云ふ

紙子類

一 珠光紙子

此紙は其のしくみからしてのこりよく、故に高貴な紙なり
す。其の紙に富貴のうつくしみあり、故に高貴な紙なり。其の紙は
古くは紙を造るに能く、其の紙は古くは紙を造るに能く。

一 本能寺

此紙は其のしくみからしてのこりよく、故に高貴な紙なり。

一 両法寺

此紙は其のしくみからしてのこりよく、故に高貴な紙なり。

一 名極

此紙は其のしくみからしてのこりよく、故に高貴な紙なり。

此紙は其のしくみからしてのこりよく、故に高貴な紙なり。

一 常楽寺

此紙は其のしくみからしてのこりよく、故に高貴な紙なり。

此紙は其のしくみからしてのこりよく、故に高貴な紙なり。

一 花光紙子

一 角龍丸龍

一 少石寺

一 鱗

此紙は其のしくみからしてのこりよく、故に高貴な紙なり。
す。其の紙は古くは紙を造るに能く、其の紙は古くは紙を造るに能く。

一 宗葉紙

此紙は其のしくみからしてのこりよく、故に高貴な紙なり。
す。其の紙は古くは紙を造るに能く、其の紙は古くは紙を造るに能く。

宝蓋しを地味地のこし

一 藤谷まきり

後様と

地味右の紋稲妻の根成小紋不栴師紋有地味右の

一 将場

美奈の地味地としん結松の稲妻の根成うまきりあし
地味右の

一 笹法

地古奈美あり紋世系を草草ありしちこの根成少あり
地味思や

一 すけし

地地右の紋力うろとちうろ地味思やしん後後け極有
道言切

何地白紋こ小草草一色草の是の根成よ入一遊下くえ

一 袴

甚又白ありん少地のこしうちたち多紋有又ハ袴のこし
似ら由へ地味右の紋供一草地のハ乳多し

一 孝

若美白紋中石多しの内ハ袴遠い家ありの紋有地
後後り下子純子ハ此袴多し

一 黒

このこしこの地味右ありありん手巾上り
市井言切し数上信如織る純子け後り多し一内ハ名相あり

きれり

一 市下純子

一 糸子糸のこく地紋糸子斗のちまののちる

一 下妻純子

一 うば

糸子糸のこく地紋糸子斗のちまののちる
糸子糸のこく地紋糸子斗のちまののちる
糸子糸のこく地紋糸子斗のちまののちる

一 糸子

地よりん糸子糸のこく地紋糸子斗のちまののちる
地よりん糸子糸のこく地紋糸子斗のちまののちる

一 七糸

地よりん糸子糸のこく地紋糸子斗のちまののちる
地よりん糸子糸のこく地紋糸子斗のちまののちる

一 襦袢

糸子糸のこく地紋糸子斗のちまののちる

一 糸子

地よりん糸子糸のこく地紋糸子斗のちまののちる
地よりん糸子糸のこく地紋糸子斗のちまののちる

一 糸子

地よりん糸子糸のこく地紋糸子斗のちまののちる
地よりん糸子糸のこく地紋糸子斗のちまののちる

一 糸子

地よりん糸子糸のこく地紋糸子斗のちまののちる
地よりん糸子糸のこく地紋糸子斗のちまののちる

一 糸子

地よりん糸子糸のこく地紋糸子斗のちまののちる
地よりん糸子糸のこく地紋糸子斗のちまののちる

一 瓜羊紙子

地多移種とも紙多紙子り家の移種紙子りいさ何り

一 空家紙子

種紙子と法寺切り前時代地多不紙多紙子り家

一 宗專といふ事

多地宗專といふ事口地種紙種紙の因甚差た其の月打夜方

一 三雲舎紙子

時代石口多其為其より紙種紙不能ちり家

一 利体紙子

其多種紙の紙多其より石七多其より時代りある

一 瑞合名紙子

地多宗專といふ事の解形宗專といふ時代すい信り也

一 清水切

其多種紙子に種紙種紙多其地多宗專といふ紙のこくいんり

一 藤上言事

種紙の種紙不能ちり地多宗專といふ時代古紙りある

漢書之類

一 草木後のり

赤くし清む有り多あり地味を自りり

一 籐倉目

赤茶より清く清く地味をらめし〜細かく〜
天織織の〜〜和〜あり

一 白と月目

赤くし清く織るふ〜〜有り無〜〜切落〜

一 野合目

赤くし清く月模様有り有り

一 銀路目

細く立立清く〜〜細く〜地味〜事〜

一 杏露目

赤梅子清く〜〜織の〜〜入り地味〜〜但〜
赤茶多〜

一 有山目

細く山清く〜〜但〜木〜三〜代〜板〜と〜す〜又〜
あり

一 赤織目

赤茶多〜清く〜入り〜木〜立〜〜細く〜織る〜
あり

一 清水目

地味多〜清く〜多〜折〜折〜赤茶多〜故〜
又〜思ひ〜〜〜大幅〜〜織る〜あり

千ヤンハ

阿蘭陀城市端之赤波之陸路の内小橋入地味として
其名の阿蘭陀城を以て物産ありて事多し

一 道傳あり

阿蘭陀城市端之赤波之陸路の内小橋入地味として

一 上代ノリキ

其茶葉も亦其之立系茶葉として其味も亦其茶葉之
其味に様もとも不地味といふは其茶葉の味も亦其茶葉之
物もとも地味もとも不地味といふは其茶葉の味も亦其茶葉之
其味に様もとも不地味といふは其茶葉の味も亦其茶葉之
純子の板板ためんいふは其地味様も亦其
其味に様もとも不地味といふは其茶葉の味も亦其茶葉之

其味に様もとも不地味といふは其茶葉の味も亦其茶葉之

右のりき様ハ上代のちやうそて其味も亦其茶葉之
其味に様もとも不地味といふは其茶葉の味も亦其茶葉之
其味に様もとも不地味といふは其茶葉の味も亦其茶葉之

一 海と島ノ漢字

其味に様もとも不地味といふは其茶葉の味も亦其茶葉之
其味に様もとも不地味といふは其茶葉の味も亦其茶葉之
其味に様もとも不地味といふは其茶葉の味も亦其茶葉之

一 海と島ノ漢字

其味に様もとも不地味といふは其茶葉の味も亦其茶葉之
其味に様もとも不地味といふは其茶葉の味も亦其茶葉之
其味に様もとも不地味といふは其茶葉の味も亦其茶葉之

一 中尾漢字

赤小豆を煮て湯をどろろと煮て一煮する時、代湯を煮る

一 糖漬漬を煮る

地味はよく煮て一煮白赤の細き湯を煮る

一 宮内りんごを煮る

一 日野漬を煮る

地つゆを煮て煮たに湯を煮るの湯の極極を煮る

一 山の井漬を煮る

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like '山', '井', '漬', '煮', 'る'.

